

テーマ：「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」

市民支援型国際交流のあり方

三本松正敏
(福岡教育大学)

1. はじめに

グローバル化の進行

・・・国際政治、経済、貿易等の国際関係のグローバル化

その反面、地球環境破壊、人口問題、食料飢餓、難民等の地球的規模で進む諸問題



国際協力、国際理解、国際交流の必要性の高まり

2. 国際交流の光と陰～その理想と現実

現代の国際関係は、グローバリズムを標榜しながら、ある特定地域のリージョナリズムを推進しつつ、最終的にグローバル化を達成しようとするものと、グローバルな問題として直接的に全世界のコンセンサスが得られなければならないものとの大別されるが、いずれにしてもナショナリズムが関与してくる。

1) 国際交流の理想

グローバル化の実現

・・・国境をこえ今日の世界を1つの人間社会システムとしてとらえ、その構成員である人間の基本的人権と自由、平等に立脚した平和な世界の促進

世界の共通語であるスポーツやレクリエーションの分野では、早くからその活動の国際理解に対する機能が認められている。

2) その現実

・・・芸術、文化、スポーツ等の分野を越えて拡大しがたい

継続性、質的高揚等がみられないものも存在したり、政治的な問題に左右される場合もある。文化摩擦の拡大等。

3. 国際交流事業と地域づくり

1) ナショナリズムとローカリズムの育成

2) 国際化、国際交流の理解の促進とレジャー・レクリエーションの位置づけ

3) 国際交流事業の主催機関の増大と拡大

4) 地域住民の参加と協力およびコミュニケーションの輪の拡大

5) リージョナリズムからグローバリズムへ

4. 21世紀の課題と展望

1) 国際化の進展

2) 国際感覚を涵養する教育

3) 民度の高揚

4) 生活のイノベーションの装置としての国際交流事業に位置づけとメッセージの発信

5) コンセプトの明確化